

航空事故調査の経過報告について

平成21年 1月30日
国土交通省 運輸安全委員会

平成19年12月9日(日) 静岡県静岡市葵区で発生した、オールニッポンヘリコプター株式会社所属ユーロコプター式EC135T2型JA31NHの航空事故について、事故発生以来、鋭意調査を進めてきたところである。

これまでに事実調査についてはほぼ完了しているが、更に調査・解析を進めるとともに原因関係者の意見聴取及び調査参加国への意見照会を実施するため、最終的に報告書を取りまとめるまでに、なお時間を要すると見込まれる。

しかしながら、同様の事象による事故発生を防止する観点から、本事故の概要及び本事故調査の経過を報告し、公表することとした。

なお、本経過報告の内容については、今後さらに新しい情報や状況が判明した場合、変更することがあり得る。

オールニッポンヘリコプター株式会社所属ユーロコプター式EC135T2型
JA31NHに係る航空事故調査について（経過報告）

1. 航空事故の概要

同機は、平成19年12月9日（日）、東京ヘリポートを離陸し静岡ヘリポート（静岡県静岡市）へ向かって飛行中、静岡県三島駅上空付近でテール・ローターの制御が不能となった後、10時53分ごろ静岡県静岡市葵区の沼地に墜落した。

同機には、機長のほか同乗整備士1名が搭乗していたが、機長は死亡し、同乗整備士は重傷を負った。同機は大破したが、火災は発生しなかった。

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| (1) 運航者 | オールニッポンヘリコプター株式会社 |
| (2) 航空機 | |
| 型式 | ユーロコプター式EC135T2型（回転翼航空機） |
| 登録記号 | JA31NH |
| 製造年月日 | 平成12年12月13日 |
| (3) 運航目的 | 空輸 |
| (4) 出発地／目的地 | 東京ヘリポート／静岡ヘリポート |
| (5) 搭乗者数 | 2名 |
| (6) 死傷者数 | 1名死亡、1名重傷 |
| (7) 航空機の損傷 | 大破 |
| (8) 運航乗務員 | |
| 機長 男性 57歳 | |
| 事業用操縦士技能証明書(回転翼航空機) | 昭和51年11月18日 |
| 限定事項 陸上多発タービン機 | 平成2年6月8日 |
| 第1種航空身体検査証明書 | |
| 有効期限 | 平成19年12月24日 |
| 総飛行時間 | 5,765時間56分 |
| 最近30日間の飛行時間 | 3時間15分 |

2. 事故調査の概要

航空・鉄道事故調査委員会は、平成19年12月9日、本事故の調査を担当する主管調査官ほか2名の航空事故調査官を指名した。

本調査には、事故機機体の設計・製造国であるドイツの代表及び顧問、事故機エンジンの設計・製造国であるフランスの代表が参加した。

現時点までの主な調査事項は、以下のとおりである。

- (1) 現場調査及び機体調査

- (2) 目撃者等からの口述聴取
- (3) テール・ローター・コントロール系統の調査
- (4) 無線機調査

3. 今後の調査事項

テール・ローター・コントロール・ロッドの破断の検証等

4. 参考情報

4.1 これまでの調査結果により判明した本事故に関する参考情報は、以下のとおりである。

- (1) テール・ローター・コントロール系統を構成するテール・ローター・コントロール・ロッドは破断しており、破面を調査したところ疲労破壊によるものと推定される。
- (2) 死亡した機長は、シート・ベルトは装着していたが、ショルダー・ハーネスを装着していなかった。重傷を負った同乗整備士は、シートベルトもショルダー・ハーネスも装着していた。

(付図参照)

4.2 本事故発生後、講じられた措置は以下のとおりである。

(1) 国土交通省航空局が講じた措置

平成19年12月11日、14日、25日、同機と同系列型機を保有する運航者にテール・ローター・コントロール・ロッドとボール・ピボット・アッシーの点検及び損傷が発見された場合の当該部品の交換を指示した。

(2) オールニッポンヘリコプター株式会社が講じた措置

安全意識の高揚

整備管理体制の充実及び強化

テール・ローター・コントロール・ロッド及びボール・ピボット・アッシーの新型部品への交換

事故機と同型機に関する操縦士の緊急操作能力の確認及び維持向上

運航管理体制の充実

付図 テール・ローター・コントロール・ロッドの破断場所

